

- 問1 山形県の西ノ前遺跡から出土した、その美しい造形から「縄文の女神」として国宝に指定されている土製品についての説明として、最も適切なものはどれですか。（2019年 山形県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 縄文時代に作られた土偶の一種であり、当時の人々の祈りや願いが込められている。 | 2. 弥生時代の遺跡から見つかった土偶であり、大陸から伝わった稲作の成功を祈るために使われた。 | 3. 飛鳥時代の寺院跡から出土した仏像の原型であり、鎮護国家の思想を反映している。 | 4. 古墳時代の古墳の頂上付近から発見された埴輪であり、葬られた有力者の権威を示している。 |
|---|---|---|---|
- 問2 石器時代の道具や生活の変化について述べた文として、縄文時代の特徴を正しく説明しているものはどれですか。（2018年 徳島県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. マンモスなどの大型の獣を追うため、移動生活に適した打製石器のみを使い続けた。 | 2. 本格的な水田稲作が広まったことで、石包丁を用いた穂首刈りが一般的になった。 | 3. 青銅器や鉄器が大陸から伝わり、石器は次第に祭祀用の道具へと変化していった。 | 4. 氷河期が終わり温暖な気候になる中で、石をみがいた磨製石器や土器が使われ始めた。 |
|---|--|--|--|
- 問3 縄文時代の人々の生活や文化について、食料の確保方法とその際に用いられた道具の組み合わせとして最も適切なものを次の中から選んでください。（2019年 佐賀県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 本格的な稲作が始まり、収穫した米を保存するための高床倉庫や、祭祀のための銅鐸が用いられた。 | 2. 狩りや採集で得た食料を煮炊きしたり保存したりするために、縄目などの文様がついた土器が用いられた。 | 3. 牛馬を利用した耕作や二毛作が広まり、収穫した作物を都市の市場で売買する生活が一般的となった。 | 4. 大陸から伝わった青銅器や鉄器を使い、大規模な開墾を行うことで、余剰生産物を蓄えるようになった。 |
|--|---|---|--|
- 問4 青森県に位置する縄文時代最大級の集落跡についての記述です。この遺跡では、直径約1メートルもの栗の木の柱を用いた巨大な掘立柱建物跡や、当時の人々が居住した大型のたて穴住居跡が数多く発見されています。この遺跡の名称として正しいものを選びなさい。（2024年 福島県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|-----------|-----------|---------|
| 1. 登呂遺跡 | 2. 吉野ヶ里遺跡 | 3. 三内丸山遺跡 | 4. 岩宿遺跡 |
|---------|-----------|-----------|---------|
- 問5 縄文時代の始まりにおける自然環境の変化と、それに対応した食料資源の変化について述べた文として、正しいものはどれですか。（2019年 千葉県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 気候の寒冷化にともなって針葉樹林が発達し、マンモスやナウマンゾウなどの大型動物が主な食料となった。 | 2. 気候の温暖化によって広葉樹の森が広がり、ドングリなどの木の実やシカ、イノシシなどが豊富になった。 | 3. 海面の上昇によって沿岸部が失われたため、人々は内陸の山岳地帯に移動して大型動物の狩猟のみに専念した。 | 4. 乾燥した気候に変化したことで草原が広がり、それまで行われていた採集に代わって家畜の放牧が始まった。 |
|--|---|---|--|
- 問6 縄文時代につくられた素焼きの人形で、豊かな収穫や病気の回復、魔除けなどを祈るために用いられたとされる遺物を何といいますか。（2026年 熊本県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| 1. 土偶 | 2. 埴輪 | 3. 銅鐸 | 4. 石包丁 |
|-------|-------|-------|--------|
- 問7 紀元前2000年ごろ、世界でインダス文明が栄えていた時期の日本列島における生活の様子を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2016年 愛知県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 薄手で硬い赤褐色の土器を用いて食料を保存し、大規模な水田での稲作を中心とした生活を送っていた。 | 2. 金属器が伝来して武器や祭祀の道具として使われ、有力な王を葬るための巨大な前方後円墳が築かれた。 | 3. 表面に縄の模様がついた厚手の土器を用いて煮炊きを行い、地面を掘り下げた床を作った住居に住んでいた。 | 4. 土器はまだ作られておらず、ナウマンゾウなどの大型の獲物を追いつながら移動して生活していた。 |
|--|--|--|--|
- 問8 縄文時代における人々の生活環境の変化と、道具の使用に関する説明として最も適切なものはどれですか。（2016年 富山県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 氷河期の影響で大型の獣を追う移動生活が中心となり、獲物を仕留めるために磨製石器が初めて登場した。 | 2. 大陸から稲作が伝来したことで、収穫した穀物を大量に貯蔵するための薄くて赤褐色の土器が広く普及した。 | 3. 気候が温暖になり動植物の食料が豊富になったことで定住が進み、食料の加工や保存のために土器が作られた。 | 4. 有力な首長が各地に出現し、集落を守るための環濠や、身分を象徴する豪華な副葬品としての土器が作られた。 |
|---|--|---|---|
- 問9 青森県にある三内丸山遺跡をはじめ、日本各地の縄文時代の遺跡から見つかる「土偶」について、その製作背景や当時の生活の様子を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2023年 香川県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 本格的な稲作が広まり、収穫した米を保存するための高床倉庫や金属器が普及する中で、魔除けとして作られた。 | 2. 縄文土器が作られ、狩猟や採集による定住生活が行われる中で、食物の豊作や多産を祈るために作られた。 | 3. 大陸から伝わった仏教の教えが広まり、寺院の本尊として拝むために精巧に作られた。 | 4. 王や豪族といった有力者が現れ、巨大な前方後円墳が築かれた際に、死者を弔うために作られた。 |
|--|---|--|---|
- 問10 2019年に制定された「アイヌ施策推進法」では、アイヌの人々の誇りが尊重される社会の実現を目指しています。アイヌ民族が日本の先住民族であることを認め、その独自の伝統や文化を維持・振興することで実現しようとしている、多様な背景を持つ人々が共に暮らし社会のあり方を何と呼びますか。（2026年 埼玉県公立入試 類似）
- | | | | |
|------------|------------|------------|-----------|
| 1. 持続可能な社会 | 2. 高度情報化社会 | 3. 多文化共生社会 | 4. 中央集権社会 |
|------------|------------|------------|-----------|
- 問11 縄文時代の遺跡から多く発見される、当時の人々が定住生活を始めたことを示す遺構について、地面を掘りくぼめた床に柱を立て、屋根をかけた住居を何と呼ぶか答えなさい。（2017年 茨城県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|---------|--------|---------|
| 1. 寝殿造 | 2. 高床倉庫 | 3. 書院造 | 4. 竪穴住居 |
|--------|---------|--------|---------|
- 問12 青森県に位置し、大型掘立柱建物跡などの発見によって縄文時代の定住生活の実態を明らかにした、日本最大級の集落跡は何か。（2025年 北海道公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------|---------|-----------|---------|
| 1. 三内丸山遺跡 | 2. 登呂遺跡 | 3. 吉野ヶ里遺跡 | 4. 岩宿遺跡 |
|-----------|---------|-----------|---------|
- 問13 縄文時代の遺跡からは、女性をかたどったとされる土偶など、当時の精神文化を反映した遺物が多く発見されています。これらの遺物が作られた目的や背景として最も適切な説明を選びなさい。（2024年 熊本県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--------------------------------------|--|-------------------------------------|
| 1. 身分の高い人物が亡くなった際、その墓である古墳に副葬品として納めるために作られた。 | 2. 自然の恵みに感謝し、食べ物の豊かさや安産などを祈るために作られた。 | 3. 大陸との交易において、有力者が自分の富や権力を誇示するために作られた。 | 4. 稲作が普及し、収穫した米を保存するためのまじないとして作られた。 |
|--|--------------------------------------|--|-------------------------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 縄文時代に作られた土偶の一種であり、当時の人々の祈りや願いが込められている。	「縄文の女神」という名称からも分かる通り、これは縄文時代に製作された土偶です。山形県舟形町の西ノ前遺跡から出土したこの土偶は、高さ45cmと日本最大級であり、当時の高い技術と精神文化を示しています。土偶はあくまで縄文時代の文化であり、古墳時代の埴輪とは製作された背景が明確に異なります。
問2	答え 4 氷河期が終わり温暖な気候になる中で、石をみがいた磨製石器や土器が使われ始めた。	約1万年前に氷河期が終わり気候が温暖になると、日本の植林や動物の生態が変化し、人々は定住生活を営むようになりました。この時期に登場したのが、より精巧な磨製石器や、食料の調理・保存に欠かせない土器です。打製石器は旧石器時代から継続して使われましたが、磨製石器の普及は縄文時代の大きな技術的特徴です。
問3	答え 2 狩りや採集で得た食料を煮炊きしたり保存したりするために、縄目などの文様がついた土器が用いられた。	縄文時代は、氷河期が終わり温暖な気候になったことで、木の実の採集や弓矢を用いた狩猟が盛んになった時代です。採取した植物性の食料を煮たり、保存したりするために土器が作られ、表面に縄目の文様が見られることが多いことから縄文土器と呼ばれます。稲作や青銅器、鉄器の使用は、その後の弥生時代の特徴です。
問4	答え 3 三内丸山遺跡	青森市にあるこの遺跡は、縄文時代中期から約1500年もの長期間にわたって継続した大規模な拠点集落です。それまでの縄文時代のイメージを大きく変える高度な建築技術や、計画的な集落の配置が確認されました。選択肢にある吉野ヶ里遺跡や登呂遺跡は弥生時代の代表的な遺跡であり、岩宿遺跡は旧石器時代の打製石器が発見されたことで知られています。
問5	答え 2 気候の温暖化によって広葉樹の森が広がり、ドングリなどの木の实やシカ、イノシシなどが豊富になった	温暖な気候への変化により、日本列島にはブナやナラなどの落葉広葉樹や照葉樹の森が広がりました。これにより、人々の重要な食料となるクリやドングリなどの木の实が採れるようになり、またこれらの森をすみかとするシカやイノシシといった中小動物が増加したことで、狩猟・採集を基盤とする縄文文化が発達しました。
問6	答え 1 土偶	縄文時代につくられた素焼きの人形は土偶と呼ばれます。豊かな収穫や魔除けなどを祈る道具として用いられました。古墳時代につくられた埴輪や、弥生時代につくられた銅鐸との違いを押さえることが大切です。
問7	答え 3 表面に縄の模様がついた厚手の土器を用いて煮炊きを行い、地面を掘り下げて床を作った住居に住んでいた	この時期の日本は縄文時代にあたります。人々は縄文土器を使って、植物の採取や狩猟で得た食料を煮炊きして食べるようになりました。また、地面を掘り下げて柱を立て、屋根を葺いた「竪穴住居」を作ることで、定住的な生活が営まれていました。他の選択肢は、弥生時代、古墳時代、旧石器時代の特徴です。
問8	答え 3 気候が温暖になり動植物の食料が豊富になったことで定住が進み、食料の加工や保存のために土器が作られた。	縄文時代は地球の温暖化に伴い、木の实などの植物性食料や魚介類が安定して得られるようになりました。これにより人々は竪穴住居を作って定住するようになり、硬い木の实を煮てアクを抜いたり、煮炊きをしりするための道具として土器が重要な役割を果たすようになりました。選択肢にある稲作の普及や薄手の土器（弥生土器）は、その後の弥生時代の特徴です。
問9	答え 2 縄文土器が作られ、狩猟や採集による定住生活が行われる中で、食物の豊作や多産を祈るために作られた。	青森県の三内丸山遺跡は、縄文時代の大規模な集落跡として知られており、当時の生活を裏付ける多くの土器や土偶が出土しています。縄文時代の人々は、弓矢を用いた狩猟や木の实などの採集、漁労によって生活を営んでいました。土偶はこのような自然環境に依存した生活の中で、自然の恵みを祈り、豊かな収穫を願う信仰（呪術）の対象として重要な役割を果たしていました。
問10	答え 3 多文化共生社会	アイヌ民族は長年、同化政策などによって独自の文化を制限されてきた歴史があります。しかし現在では、そのアイデンティティを尊重し、異なる文化を持つ人々が互いに理解を深めながら対等な関係で共に生きていく「多文化共生社会」の実現が、人権保障や民主主義の観点から重要な目標とされています。
問11	答え 4 竪穴住居	縄文時代、弓矢の発明や土器の使用によって食料の獲得・保存が安定したことで、人々は移動生活から一箇所にとどまって暮らす定住生活へと移行しました。地面を数十センチメートルほど掘り下げて床にすることで、冬の寒さや夏の暑さをしのぎやすくする工夫がなされており、この構造の住居は弥生時代以降も長く使われ続けました。
問12	答え 1 三内丸山遺跡	青森県で発見された三内丸山遺跡は、縄文時代における最大級の集落跡であり、当時の人々が一定の場所に長期間とどまる「定住」を行っていたことを示す重要な遺跡である。佐賀県にある弥生時代の吉野ヶ里遺跡と混同されやすいが、時代背景と地域（青森）を区別して理解することが重要である。
問13	答え 2 自然の恵みに感謝し、食べ物の豊かさや安産などを祈るために作られた	縄文時代は、狩りや漁、採集による生活であり、自然の状況に食料確保が左右されました。そのため、土偶などの遺物は、子孫繁栄や獲物の増加、病気の回復といった切実な願いを込めた呪術的な道具として用いられたと考えられています。